

神の印

2026年5月10日

ヨハネの黙示録 9章1～21節

序：8章：第1～第4のラッパ。

9章：第5、第6のラッパ 第1の災い、第2の災い
11・15～19 第7のラッパ 第3の災い

I. 第5のラッパ 1～11節 (第1の災い 12節)

- (1)一つの星(一人の墮落した天使)の落下
底知れぬ所に通じる穴の縫を開く
悪霊たちの一時的な居場所
20章でサタンが千年悶じ込められる
最後の審判後の永遠の住家は地獄

cf. シェオール(よみ)・死者のたましいが行く場所 (パラダイス/ハデス)
キリスト復活前は信者も不信者も行った

(2)起きたこと

- ①暗黒(穴からの煙によって)
②いなごの大群(悪霊ども)の出現
彼らの外面：7～10節(不気味、獰猛、加害力・破壊力強力)
" 王：底知れぬ所の使い(アパドン、アポリュオン=破壊者)
目的：額に神の印を持たない者を5ヶ月(150日)間苦悶させる
7.4
殺すことは許されないが、死を切望する苦痛を与えた

II. 第6のラッパ 13～20節 (第2の災い)

(1)金の祭壇の4本の角からの声

4人の御使い(ユーフラテス河のはとりに繋がれている)を解放せよ

(2)起きたこと

- ①騎兵(悪霊)2億の派遣
彼らの様子：17～19節(馬と乗っている者)猛烈な破壊力(火風、試)
目的：人口の1/3を死滅させる 他の2/3にも耐え難い激痛、苦悶
- ②結果：人間の1/3が殺された
残った2/3の人々：悔い改めなかった
●偶像礼拝を続行した
(悪霊崇拜含む)
●悪行(殺人、魔術、淫行、盗み)を止めない

III. 結び

- (1)神の印は神のしもべたちに押された(教会擣挙後～患難期終わり)
(2)神に受け入れられたしるし。死ぬのも生きるのも主のものであるしるし
(3)耐えられないような苦難に会わせないようにという目印
(4)押されていない者に降る苦難/決して悔い改めない暗黒さ&強情・頑迷さ
(5)私たちに押されているのは聖霊の証印(義、神の子、神のもの、天国の相続人)